

# 86年の歩み

86年の人生を、時系列にまとめて発信します。

小学生になるまでは、今は呉市に編入されていますが、大崎下島の大浜に住んでいました。ピカドンにやられたという小母さんのところへ、牛乳を運んだ事や、人を見たら「昭和15年2月2日生れ、乃美友治郎です」

と言って歩く、調子者だったこと  
とや、学校へ兄の傘をも持って  
行って、先生に褒められたこと  
などを、覚えています。

2025・12・27

前の原稿を書きましたら、急に記憶がよみがえり、様々な事を思い出しました。列举します。

父親と一緒に磯釣りに行った  
のですが、帰る時は満潮で海の中  
を歩いた事。空襲があり、近  
所の人と高台のお寺に避難した  
こと。婦人会と称して、母親た  
ちが竹槍の訓練をしたこと。水  
陸両用車が砂浜に上陸したこ  
と。兄の話だと8月6日には  
「ピカッ」と光ったとのことで  
すが、私の記憶にはありませ  
ん。

2026・1・1

昭和20年12月、大浜から漁船に家財道具を積んで、安芸津町三津を目指しました。船は海面すれすれで、大風が吹けば、転覆するのではないかと思わせるほど、危ない状況でした。それでも何とか目的地に到着。そこから大八車に荷物を積んで、蚊無へ向かいました。私は幼児なので何もしていませんが、父母は大変だったでしょう。何故、蚊無かと言うと、父親が職業軍人で敗戦とともに退役?していたのですが、生活を維持するために、開拓団に参加してしまし

た。その場所が蚊無だったのです。ここから貧乏生活が始まります。

2026・1・5

昭和21年の春、小学生になりました。担任は女性の先生でした。3年生までお世話になりました。遠足の時「派手な弁当」は持ってこない様にと注意されたのですが、言った本人が巻きずしをもってきていたのです。(お母さんが作ったのでしょう)。それで、大変恐縮されて、皆に食べて頂戴と言われました。私はと云えば、相変わらず調子者で、よく言えば積極性を発

揮していました。学芸会の演奏で「大太鼓をやりたい」と言って困らせたりしていました。ホームルームで皆で、菓子を持ち寄りました。私のはなかなかの量でしたが、分けて貰った物が少なかったので文句を言ったら、叱られました。

2026・1・11

小学生の年長組になった時、私の人生に影響を与える出来事がありました。先生からテストの結果が発表され、私が一番だとのことでした。自分は出来る人間ではないと思っていたので嬉しかったで

す。少しばかり自信を持てるよう  
になりました。

2026・1・24

年長組になると蚊無という地域から  
集団で登校するのですが、守るのは  
私たちになります。弟も年少組で入  
学して来ました。ある時、弟の友達  
が来て弟さんが泣いていると言うの  
で行ってみると「足が冷たい」との  
ことだったので私が作った「草履」  
を履かせました。落ち着いたので自  
分の持ち場へ帰りました。貧乏は嫌  
だなと思ったのは、その時が初めて  
でした。

2026・2・2

昭和 27 年、中学生になりました。春休みの時、母親から「勉強しなさい」と言われ少し勉強しました。入学時に試験がありましたので、この時の勉強が生きたのか、級長に指名されました。自慢ではなく、この事も自信になりましたね。住まいも駅から 7km 程の「奥」へ引っ越したため、足腰が鍛えられ、マラソン大会では 900 名(男子は 450 名)中二番目となり、陸上部で駅伝大会にも出場出来ました。

2026・2・11

3 年生になると成績が良かったからだと思いますが、生徒会長に立候補するよう推薦されました。先生の指

導も受け、更には1年生の応援演説も取り付けて、所信表明をいたしました。弁論大会にも2回出場していただきましたので、大勢の前で話すことは苦になりませんでした。結果は当選です。このことは私の高校生活を「小さいもの」にしました。生徒会長だったと言う事が足かせになり、自由に行動することが制約されたからです。当時は真面目だったのです。

2026・2・20

高校に入学したときは、142cmでしたので、劣等感を持っていました。それが原因で何をやるにしても、消極的だったので、高校生活がイキイ

キとしたものには、なりませんでしたね。ただ、卒業する時には 158cm になりましたので、少しは自信が持てたかな?? 良いことと言えば二人のポン友が出来たことです。卒業後も三人で飲む機会が度々ありました。

2026・3・1

高校生活の中で、忘れられないのが「ノイローゼ」になったことです。今でいう「潔癖症」の親玉のような症状になり、25才まで苦しみました。25才の時、交通事故にあい、40日入院しました。その時に頭の上部が無い人などに会い、自分の悩みは「大したことではない」と思えて、こだわり

が薄れました。その後も苦しみはしましたが「共存しよう」という気になれて、何とか普通に過ごせました。

2026・3・7

高校生活も終りに近づき、就職試験をあちこち受けました。2次試験まで合格し、家庭訪問がありました。駅から7kmのところのところに自宅がありました。訪問者も歩くわけですから疲れたと思います。最終的な判定はバツでした。もっと駅に近いところだったらどうだったかと思うと、少し残念でした。竹原というところで銀行の試験も受けました。そこでは、貯金がどれだけあるか聞かれ、無い

と言ったら、それで即不合格でしたね。もともと国家公務員の試験が本命でしたから、ショックではありませんでした。

2026. 3・16